

# 平成27年度第2回奈良県社会教育委員会議（概要） 〔報告書〕

- 1 日 時 平成28年2月18日（木）9：30～11：30
- 2 場 所 奈良県文化会館 第2会議室
- 3 出席委員 委員名簿記載のうち、飯田喜代視、大辻哲男、大寺和男、岡田龍樹、川野麻衣子、倉本優子、阪口保、佐野万里子、谷垣康、辻村里美、中野和子、福井基雄、法貴和子（敬称略）13名
- 4 内 容 (1) 開 会 あいさつ 奈良県教育委員会教育長 吉田 育弘  
(2) 委員紹介  
(3) 議 事  
① 第1回奈良県社会教育委員会議より討議の柱について  
② 今後の議論の進め方について  
③ 討議の柱「子どもの課題を解決するための親の育ちのサポート」について
- 5 議論のまとめ（作業部会の議論をふまえて）



**テーマ 「子どもに関する課題を解決するための大人の学びを創造する社会教育の在り方」  
～社会教育が多様な子どもたちの課題の受け皿となるために～**

## 討議の柱1 子どもの課題を解決するための親の育ちのサポート

### 現状と課題

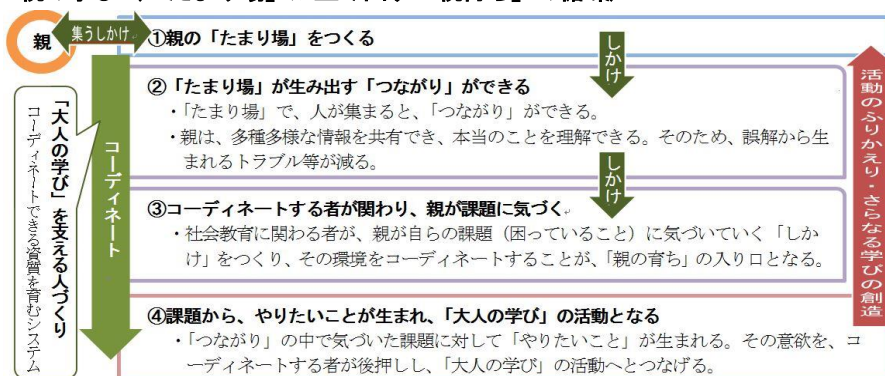
自らの子育ての課題について気がついていなかったり、自信がなく不安のうちに子育てをしていたりする親が多い。しかし、子育てについて学ぶ講座を実施しても、本当に来てほしい層の親は来ない現状がある。

### 【具体的な方策】「たまり場」づくりから始まる「親の育ち」の循環

#### I 「たまり場」とは

- ・誰でも来られて、楽しめる親のよりどころとなる場や機会。

#### II 親の学び（「たまり場」が生み出す「親育ち」の循環）



親が「たまり場」に集い、自然につながる中で、「課題」に気づき、「やりたいこと」が生まれる。それをコーディネートする者（社会教育主事、公民館職員、NPO職員、その他地域で社会教育を担う人）が支援することで、学びの活動が生まれる。この活動を「たまり場」にフィードバックし、「親育ち」の循環を創出する。

#### III 「たまり場」づくりから始まる「親の育ち」の推進のためのポイント

- ①課題を抱えているが、関心のない親が集いたくなる「しかけ」
  - ・学校等、子どもにとっても親にとっても行きやすい場所や機会を活用する。
  - ・乳幼児期の親のサークルやPTA、スポーツクラブ等、既にある場や機会を活用する。
- ②親がつながり、課題に気づくための「しかけ」
  - ・「井戸端会議」のイメージで、手作業をしながら話をする。
  - ・親のニーズに合わせた活動の中で、親自らが子どもを育む視点に気づくようコーディネートする。
- ③「親の育ち」が生まれる学びの場
  - ・親として自分も楽しめ、活動を通して子育てしている自分を肯定的に認めることができる場をつくる。
  - ・子どもを育む視点を親自身に気づかせ、親として成長していけるプログラムを創出する。



#### IV 親の育ちを支える者の学び（「大人の学び」を支える人づくり）

- ・親と子、親と親、親と社会教育関係者等が多様につながり合うことができる「たまり場」にしていくためには、プログラムを創り出し、それをコーディネートしていく資質をもった者が必要である。
- ・その資質として、①「思い」、②「フットワーク」、③「ネットワーク」、④「発想力」⑤「情報収集力」等が挙げられる。
- ・コーディネートする者に、プログラムや実践例等の情報を提供するとともに、互いにつながり合える場（研修会等）をつくる。

# 平成27年度第2回奈良県社会教育委員会議まとめ

## 討議の柱1 子どもの課題を解決するための親の育ちのサポート

### 1. 現状と課題

親が、子育てについて学ぶ場や機会が少ない。乳幼児期の子どもを持つ親にくらべて、子どもが学童期の親は、その傾向がある。また、核家族化、親の多忙、個人主義の進行、地域ぐるみの子育ての衰退などにより、地域から孤立していることがある。そのため、自らの子育ての課題について気がついていなかったり、不安で自信なく子育てをしていたりする親が多いことが、子どもたちに関わる課題を生み出している一要因となっている。特に、近年ではDVや虐待が日常化しており、その世代間連鎖も生じている。

また、子育てについての学び（研修会等）を開催しても、本当に来てほしい層や本当に困っている層の親が、学びに参加しない現状がある。

### 2. 具体的な方策

#### 「たまり場」づくりから始まる「親の育ち」の循環の必要性

親の育ちをサポートする入り口として、どの親も気軽に集える「たまり場」をつくり、その場で生まれた「つながり」を利用して、子育て※を意識した親の育ちのための「大人の学び」をつくっていく必要がある。

- I 「たまり場」とは
- II 「たまり場」づくりから始まる「親の育ち」の循環
- III 「たまり場」づくりから始まる「親の育ち」の推進のためのポイント
- IV 「大人の学び」を支える人づくり

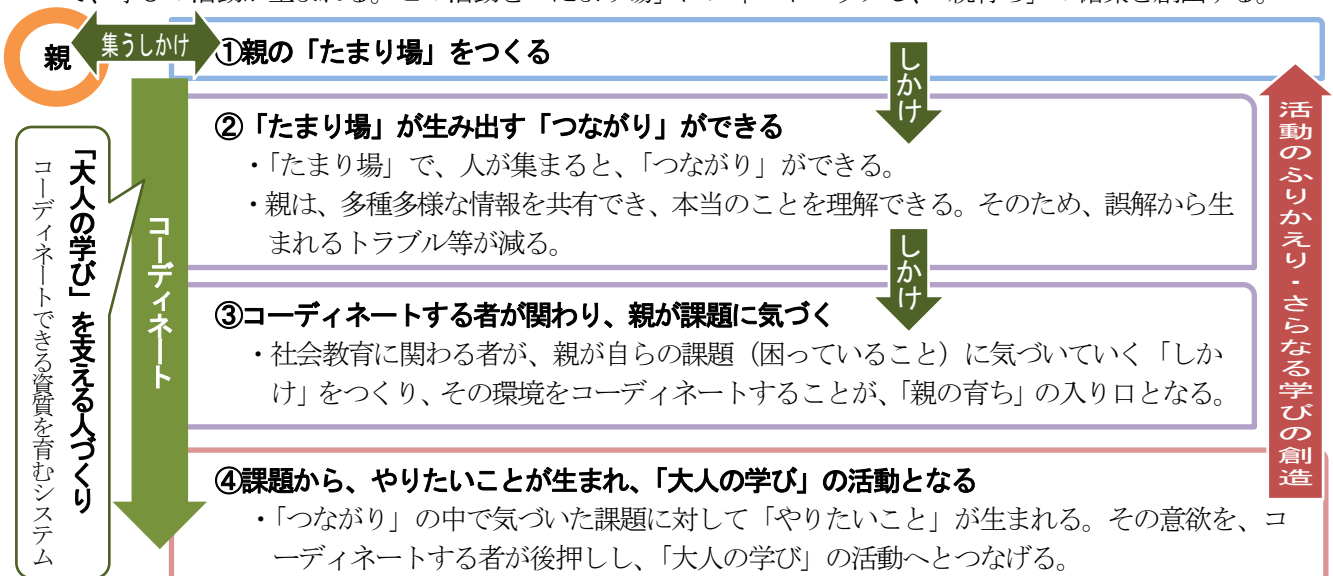
※子育て・・・子どもを自ら育つ主体と考え、その自己実現を支援すること。

#### I 「たまり場」とは

- ・誰でも来ることができて、楽しむことができる、親のよりどころとなる「場」や「機会」。
- ┌ 「場」の概念・・・学校や公民館、集会所、商店街など、多様な人が意見交換を行う場。
- └ 「機会」の概念・・・公民館の講座やPTAの会合、地域のスポーツクラブなどある一定の人が集う機会・ネットワーク等。

#### II 「たまり場」づくりから始まる「親の育ち」の循環

親が「たまり場」に集い、自然につながる中で、「課題」に気づき、「やりたいこと」が生まれる。それをコーディネートする者（社会教育主事、公民館職員、NPO職員、その他地域で社会教育を担う人）が支援することで、学びの活動が生まれる。この活動を「たまり場」にフィードバックし、「親の育ち」の循環を創出する。



### Ⅲ 「たまり場」づくりから始まる「親の育ち」の推進のためのポイント

#### ①課題を抱えている、関心のない親が集いたくなる「しかけ」

- ・その場に魅力的な「しかけ」や「場」があり、親たちが、そこが、楽しく有意義に感じられるようになると、再訪するようになり、「たまり場」となる。
  - 〔例1〕親が、気軽にお茶を飲んだり、スポーツを楽しんだり、「子ども食堂（例6）」で悩みを話し合ったりできる場や機会をつくる。
- ・子どもにとっても親にとっても行きやすい場所を活用し、「たまり場」をつくる。
  - 〔例2〕学校を活用。その際、学校が地域に場を提供する意識が必要である。校長会と連携し、学校と地域が協働して地域ぐるみで子どもを育む「地域と共にある学校づくり」の中で、子どもの居場所づくりだけでなく、親の居場所づくりという視点を取り組む。
- ・既にある場や機会を活用し、「たまり場」としていく。
  - 〔例3〕すでにある乳幼児期のサークル（集まり）、PTA、家庭教育学級、ガールスカウト等の場や機会を活用する。また、乳幼児期のサークルを学童期以降にも継続したり、PTAの同窓会を創出し、学びの場としていくことも考えられる。
  - 〔例4〕子どもの講座、スポーツクラブと一緒にやってくる親に簡単な役割を与え、スタッフとして参加してもらおう。そのボランティアの後、お茶会等を持ち、つながりの場に変える。そこに、投げかけ（アウトリーチ※）を行い学びの場としていく。
- ・関心のない親が、「たまり場」に来ることができるよう、行政、学校、社会教育団体、地域住民等が、個別にアプローチをする。
- ・「たまり場」を、親・子ども・コーディネートする者が多様につながる場にする。
- ・「たまり場」では、親同士が子どもの名前ではなく、お互いに名前呼び合えるような関係に進めるよう、コーディネートする。

#### ②親がつながり、課題に気づくための「しかけ」

- ・かつての「井戸端会議」のようなイメージで、手仕事などをしながらであると話が進む。
- ・親のニーズに合わせ、活動する中で、子育ての課題を親自身が気づくように、コーディネートする。
  - 〔例5〕PTAの活動の中で親の気づきを促す。小学校入学前、小学校在学中、中学校進学前とそれぞれの段階で、親の不安に対して、その年代を経験した先輩の親が相談相手になり、不安解消の場にすることもできる。
  - 〔例6〕学童期の親は仕事に就き、時間が作れない。そこで、「子ども食堂」を設置し、子どもや親に食事を提供することで、親の家事が軽減するとともに、働いている母親が子どもと関わる時間を確保したり、親同士が悩みを相談し合ったりすることができる。悩みを話し合える場として軌道に乗れば、将来、参加した母親がスタッフの一員になることも考えられる。

#### ③「親の育ち」が生まれる学びの場

- ・親として自分も楽しみ、活動を通して子育てしている自分を肯定的に認めることができる場にする。
- ・親が子どもと活動する中で、子どもを育む視点を親自身に気づかせ、親として成長していけるようにプログラムを工夫する。
- ・「たまり場」がうまく機能すると、その場が潤滑油となり、「親の学び」が動き出し、地域ぐるみで子育てを行う第一歩となる。
- ・課題を抱えている親の現状について、地域の方も関心をもつことが出来るような学びをつくっていくことも、社会教育にできることの1つである。

※アウトリーチ・・・援助を自発的に申し出ない人に対して、手を差しのべ、積極的に働きかけ、支援の実現を目指すこと。



#### IV 親の育ちを支える者の学び（「大人の学び」を支える人づくり）

- ・親と子、親と親、親と社会教育関係者等が多様につながり合うことができる「たまり場」にしていくためには、プログラムを創り出し、それをコーディネートしていく資質をもった者が必要である。
- ・コーディネートする者の資質は、以下のようなものが考えられる。
  - ① なんとかしたい「思い」がある
  - ② 実現に向けてまずは動ける「フットワーク」がある
  - ③ 人をつなげ、活用する「ネットワーク」を拡げることができる
  - ④ 人を集める「発想力」と、それを支える「情報収集力」がある 等
- ・コーディネートする者が、人が集う場・機会を利用し、「親の学び」の視点を持って、アウトリーチしていくことが大切である。
- ・「たまり場」にコーディネートするものが、メタ認知（より高い視点より客観的に自分を把握し認識すること）を共有する視点をもって、アウトリーチする必要がある。
- 〔例7〕親が、課題に気づいても、それが自分で解決できないとき、自分が「たまり場」で学んでいくことが解決方法の1つになるということに気づいてもらえるようにコーディネートする。
- ・コーディネートする者の資質向上を図るため、バックアップする行政の役割を整理する。県行政のシステムとして、コーディネートする者に、プログラムの手法や実践例等の情報を提供したり、その者たちがつながり合える場（研修等）をつくったりしていく。

### 3 実践例

#### 【大阪府貝塚市 貝塚子育てネットワークの会】

乳幼児のサークルの集合体だけでなく、乳幼児を持つ親から中高生を持つ親までの結びつきがあり、公民館と共同しながら、子育てネットワークづくりを進めている。子どもの成長段階別に4つの部会からネットワークの会が成り立っている。これまでの活動の中で、親は支援される存在ではなく、自らが子育て仲間として、子育ての先輩としてアドバイザーとなっている。

● 貝塚子育てネットワークの会って？

**誕生**

貝塚子育てネットワークの会は、1988年、貝塚市立中央公民館の創立35周年記念事業「記録映画「アリス」上映」のため、地域の子どもに関係するグループが集まったことがきっかけで発足しました。  
 「公園に行ってもひとりぼっち」「たぐさんの仲間と子育てしたい」「外で元気に遊ばせたい」  
 お母さん達のいろいろな思いが出される中で、公民館職員から「子育て中だからこそ、学ぼう！」と、提案されました。  
 「子どもを連れて何を学ぶの？」「自分のサークル活動だけが大変なのに、これ以上しんどい事はできないわ」  
 けれども、みんなの力で講座を作りあげたとき、とても充実感がありました。「やっぱり、学ぶことが大切」「この人たちとなら、何かやれそう」「仲間と一緒に、子育てしたい」「しんどいこともあるけど、楽しい！」  
 毎年、新しい仲間を迎えつつ、貝塚市立中央公民館とともに「学び」と「仲間づくり」の活動を続けています。

**目的**

① 地域ぐるみの子育てをめざす  
ひとりぼっちのお母さんがいない地域  
子どもたちがイキイキと輝く地域  
お父さんも子育ての担い手に

② 将来を見通せる子育てをめざす  
幅広い年齢層の人たちとの仲間作り  
いろいろなグループ間の交流  
学習活動

**構成**

乳幼児部会  
子育てサークル  
（あひるこ・さくらんぼ・どんぐりようちえん・ノンタンようちえん）  
幼稚園部会  
小学生部会  
中学生部会  
保育部会  
広報部会（ネットワークニュース班・ホームページ班）  
プレイバーク実行委員会  
プレイバークサポート隊  
遊ぼう！はらっば  
赤ちゃんルーム担当  
貝塚子育て情報誌編集担当

**事業**

学ぶ	【講座の開催】 子どもの年齢別に分かれて構成した4部会（乳幼児・幼稚園・小学生・中高生部会）で企画・運営。 【貝塚プレイバーク】 主旨に賛同する各部会のメンバーで実行委員会を組織。貝塚市子ども広場で、年4回開催。 【遊ぼう！はらっば】 主旨に賛同する各部会のメンバーを中心に当番を担当。貝塚市子ども広場で、毎週水曜日の放課後に広場を開放。 【はらっば親子あそび場】 主旨に賛同する幼稚園部会以上のメンバーがスタッフを担当。貝塚市子ども広場で、年一回、乳幼児の親子対象に開催。
遊ぶ	【「NEWS」子育てネットワークの発行】 子どもに関わる行政機関で配布。 広報部会ネットワークニュース班が編集を担当。 【ホームページ・ブログの開設】 広報部会ホームページ班が作成を担当。 【チャットルームの作成・配布】 公民館を通じて、主に市内公立園・校で配布。
伝える	【共催講座の保育】 各部会が公民館と共催で企画・運営している講座の保育を相互でボランティアで担当。保育部会が保育者のとりまとめを担当。 【公民館主催講座運営協力】 公民館主催講座「赤ちゃんひろば」への運営スタッフ派遣 【貝塚子育て情報誌「イキイキ子育てナビゲーション」の作成編集】 行政機関と協働し、2008年4月から年4回発行。 【次世代育成】 プレイバークにて、中学生以上の学生をプレイバークとして募集し、異年齢の交流を図る。
支える	

貝塚子育てネットワークの会HP (<http://kosodatenet.web.fc2.com/index.html>) より抜粋

# 奈良県社会教育委員会議・作業部会のスケジュール(案)

